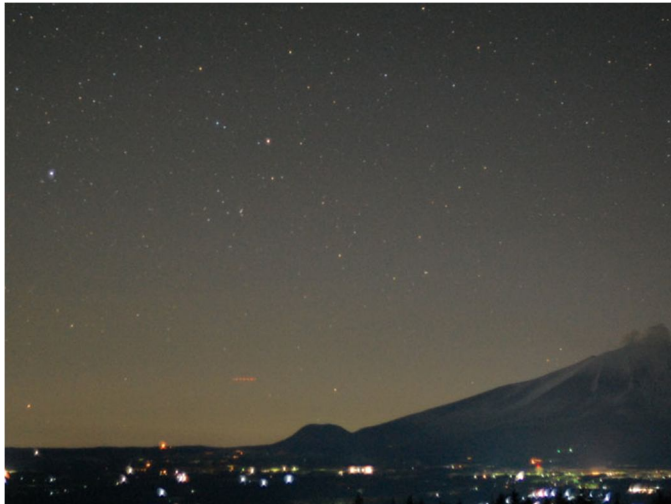


「カノープス再挑戦 (2)」

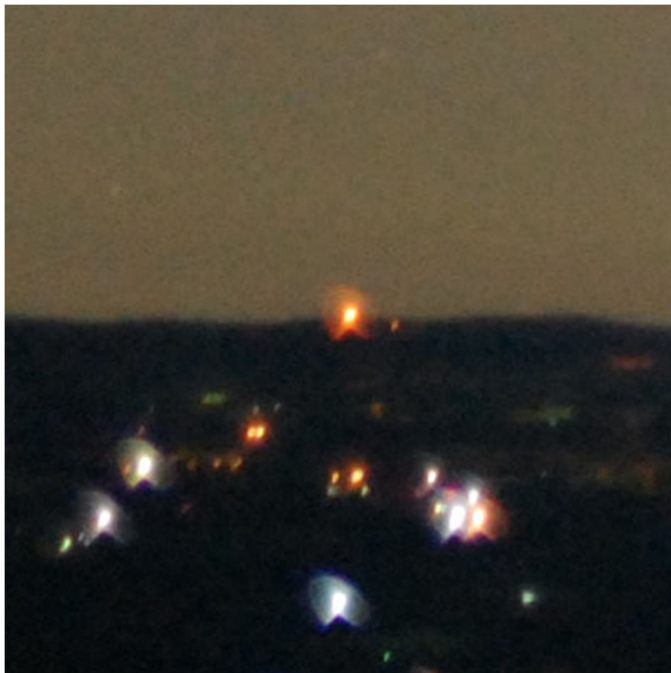
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

りゅうこつ座のカノープスは「南極老人星」とも呼ばれる。日本では南の地平線に低く、観望が難しい。それだけに見ることができると、これは吉兆となる。

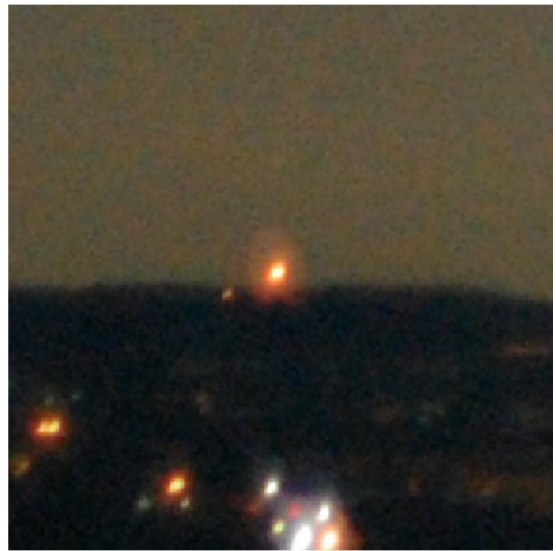
「カノープスを見ると長生きする」という言い伝えもある。今回こそ見逃したくない。



天球に願いが通じたようだ。南中時刻の 15 分ほど前、ついに小浅間山の左側に「赤い光」が現れた。かなり明るい。果たしてカノープスだろうか？

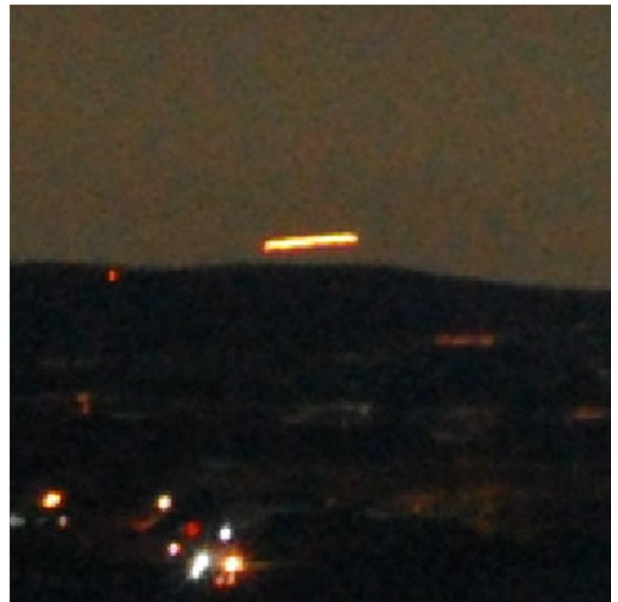


「赤い光」は、丘陵地平線の森の切れ目に現れた。非常に明るいので、私は最初、自動車の前照灯か何かだと思った。しかし、じっと肉眼で観察していると、この「赤い光」は、ゆっくり動いているとわかった。



前の写真の 1 分後の姿である。「赤い光」は右に移動し、稜線からも明らかに離れている。位置的に見てもカノープスに間違いない。カノープスまでの距離は約 300 光年。実に江戸時代にカノープスを出発した光を、こうして目とカメラでとらえることができたのだ。

それにしても赤い！カノープスが赤く見えるのは、ベテルギウスが赤いのは理由がちがう。ベテルギウスは赤色超巨星で、恒星自体が赤っぽい。カノープスは本来、A 9 II 型の青白い恒星である。しかし、南中高度が低く、恒星の光が大気の厚い層を通過してくる為、夕日と同じように赤っぽく見えるのである。



赤道儀の駆動を止めて撮影すると、カノープスの日周運動がよくわかる。地平線を這うようにしてほとんど真横に移動している。(写真はカノープスの 30 秒間の動きである) 南中高度が非常に低いにもかかわらず、これほど明るく見えるのは驚異的である。さすが、シリウスに次ぐ「全天第二の輝星」である。